

2026 (10kHz～2.4GHz) / 2026Q (800MHz～2GHz)

最大3個の高性能RF信号源とコンバイナを1台に収納(2、3信号試験に)

IS95Aに基づく2トーン干渉試験に対応(2026Q)

 GPIB / RS-232C


2026概要

2026は複数(3個または2個)のRF信号源を搭載する多出力型のRF信号発生器です。各信号源はAM、FM、位相変調、パルス変調のできる独立したユニットであり、しかもコンバイナ、スイッチを内蔵していますので、部品・受信機を選択度試験のように2～3台のRF信号発生器が必要となる場合でも2026が1台あればOK。スペースセービングのみならず試験精度の向上にも貢献します。また、2～3トーンによる増幅器の相互変調、受信機相互変調、受信機選択度試験などのよく行われる試験設定を簡略化できるアプリケーションモード、バックライト付大型LCDによるグラフィカルな表示、使い勝手を考慮したパネルレイアウトなど、操作・表示面においても大変優れています。

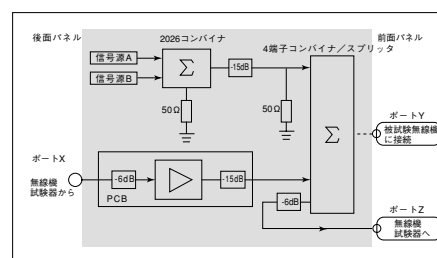
2026特長

- 3個または2個の高性能RF信号源を1台に収納
10kHz～2.4GHzの広帯域
- 個々の出力は最大+24dBmの高出力
- セットアップを簡単にするアプリケーションモード
- 各信号源のトラッキングが可能
- 外部信号発生器からの信号と内部信号をコンバイナ可能
- 搬送波の位相を変えて3トーン相互変調のピークが検出が可能
- コンバイナを内蔵することにより出力レベルの精度を保証
- 相互変調と受信機特性試験に最適

2026Q概要

2026Qは、IS95Aに基づくCDMAセルラやPCSシステムの受信機の総合試験用に設計された多重化信号発生器であり、CDMAハンドセットや基地局の試験装置用に特化された機能を装備しています。

2026Qには2個の独立したシンセサイズド信号発生器が内蔵され、別々の出力のほかコンバイナした出力をおこなうことができ、またコンバイナ出力には被試験機器とCDMA無線試験器への双方向の経路があります。なお各信号発生器の周波数範囲は10kHz～2.4GHz、コンバイナ出力時の周波数範囲は800MHz～2GHzになります。



2026Q回路構成図

2026Q機能

- 信号経路の校正、カップリング
無線機テストの出力信号が入力される入力端子Xと内部の2個の信号はどのように組み合わせても出力端子Yの出力は精度保証されています。また被試験無線機(CDMAハンドセットなど)はYに接続され、その出力はYからZの内部経路でパスされるため接続変更なしに送受信試験が可能です。
- 切換え無しに周波数ハンドオフ
ループバック状態でIS95Aに基づくCDMA干渉試験が可能で、他のチャンネルやセルラとPCS帯の間のハンドオフ能力の試験も行えます。RF信号の機械的な切換え機構を使わずに干渉信号を結合していますので、機械的な切換えによる影響がありません。
- 高アイソレーション
無線機テスト、干渉信号源、被試験無線機間の送信経路と受信経路間のアイソレーションを大きくしています。865MHz～895MHz、1750MHz～1990MHz帯域のドリフトはわずかでレベル精度は±0.25dBです。帯域内の周波数特性は平坦度±0.1dB以内であり、必要な校正を最小にしています。また、2026Qにはこの帯域の経路損失試験データシートが添付されます。
- ◆仕様は5ページをご参照下さい

性能・機能

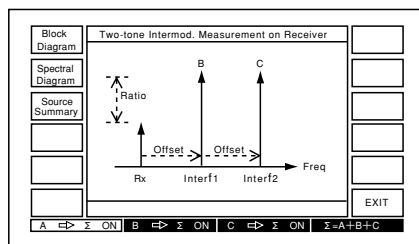
■ 測定精度

コンバイナ、スイッチ、ケーブルを内蔵していますので、複数の信号源を接続した場合に生ずる信号劣化を防止し、増幅器や受信機の相互変調試験の精度向上ができます。また内部の周波数標準や信号源経路の補正係数などのすべての処理がデジタル化されているため、ケースを開けることなく調整が可能。機械的な調整器がありませんので、長期ドリフトや機械的衝撃に対しても極めて堅牢です。

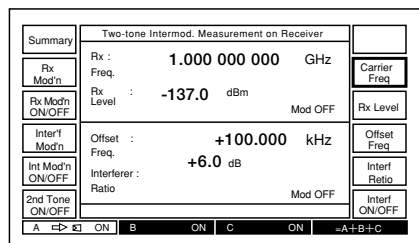
■ アプリケーションモード

アプリケーションモードはよく行われる(複雑な)試験設定を簡略化できる機能です。そして設定においても、内部信号のルーティングにダイアグラム表示で、各信号のレベルやチャンネル間隔にはスペクトル表示を用いるなど、ビジュアル化されたわかりやすい操作になっています。

例えば、「受信機試験の相互変調試験」を選ぶと、受信機入力周波数とレベル、2個の干渉信号のレベルの比(受信機入力レベルの相対値)、チャンネル間隔を入力すると信号源が自動的に設定されます。その他「増幅器の2～3トーン相互変調試験」や「受信機選択度試験」が装備されています。



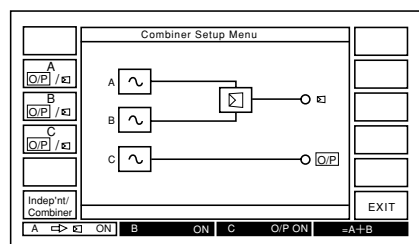
受信機の2トーン相互変調のスペクトル



受信機の相互変調試験の操作画面

■ ルーティング設定

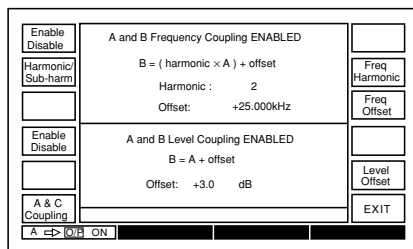
各信号源をそのままスルーで出力するか、コンバイナを経由して出力するかを選択することができます。また2050シリーズなどの信号発生器の出力を外部より入力し、内部信号とコンバイナすることもできます。



信号源とコンバイナの信号の流れの設定

■ 信号源のオートカップリング

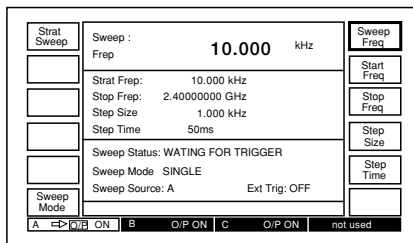
各内部信号源の周波数やレベルを自由にずらして関連をもたせることができます。信号源周波数を高調波(または低調波)関係になる周波数だけずらすことができますので、高調波変換器やディバイダの試験を簡単におこなえます。カップリング操作は画面上の数式に係数入力するだけで簡単に設定できます。また信号源を互いにトラッキングさせる設定もできますので、ミキサ、通信器(マルチプライヤ)、分周器の試験が大変簡単になります。



カップリング設定画面

■ スイープ

信号源の1個について、任意の開始周波数、停止周波数、1ステップ当たりの時間を設定し周波数掃引を行うことができますので操作時間や GPIB のオーバーヘッド低減をはかることができます。またカップリング機能を働かせて1個の信号源を掃引すれば、他の内部信号源が自動的に掃引しますので、周波数変換素子等の自動掃引測定もできます。さらに、変調を掛ければ受信機耐力特性の掃引測定にも応用できます。



掃引(スイープ)画面

■ +24dBmの高出力

個々の信号源は+24dBmと高出力なため、相互変調が低いままであってもコンバイナの出力レベルを高くすることができます。

■ 多様な変調

各信号源を変調信号源で個別に変調することができます。内部変調源の周波数は0.01Hz～20kHzを0.01Hz分解能で可変することができ、波形は正弦波、三角波、方形波から選択できます。内部変調源もしくは複数の別々の外部変調信号源でAM変調、FM変調、位相変調をした搬送波信号を発生することもできます。DC-FM変調は搬送波誤差が極めて小さく、安定しており、わずかの周波数誤差に対する受信機の感度を正確に測定することができます。

■ パルス変調

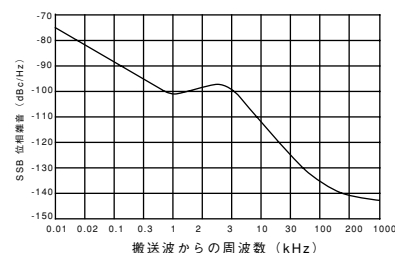
各信号を別々にパルス変調できますので、40dB以上のON/OFF比、10μs以下の立上り時間と立下り時間でTDDやTDMAパースト信号のシミュレーションができます。

■ FSK

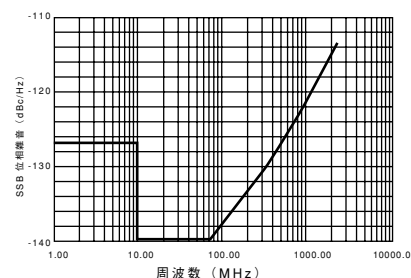
外部ロジック入力で2値と4値のFSK信号を発生することができます。ページャやRFモデムの試験に最適です。

■ 高スペクトル純度

選択度とSN比の測定にはスペクトル純度の高い信号が必要ですが、2026の残留FMは代表値3Hz、SSBフェーズノイズは1GHz、20kHzオフセットで-121dBc/Hzと、きわめてローノイズです。



1GHzのSSB位相雑音の代表特性



搬送周波数から20kHzオフセットでの位相雑音の代表特性

■ GPIBプログラム

全機能の制御ができるGPIBインターフェースを搭載しています。GPIBコマンドはIEEE488.2に準拠していますので自動試験プログラムが作れます。

■ その他

● 各出力に対して50Wの逆電力保護機能を装備しています。

● 温度変化に強い設計がなされており、校正値の信頼性維持に優れています。

● 内部ソフト(フラッシュ・メモリ)の書換えにより今後のアップグレードが可能です。

■ オプション(工場オプション)

● 後面コネクタ付オプション[Opt004]

全信号源出力、変調とパルス入力、コンバイナ出力を後面パネルに取付けします。

2026仕様

■ 搬送波周波数

範囲仕様 10kHz～2.4GHz
 分解能 1Hz
 確度 周波数基準に同じ

■ RF出力

範囲 個々の出力: -137dBm～+24dBm*1
 コンバイナ出力: -137dBm～+4dBm*2
 (+10dBmまで設定可能)
 最大出力はパルス変調時は5dB減少、AM変調時には変調度によって最大6dB減少
 *1: 1.2GHzを超える周波数では+20dBm以上非校正
 *2: 1.2GHzを超える周波数では0dBm以上非校正
 分解能 0.1dB
 単位 単位は μ V、mV、V (開放時または50 Ω 終端時)、 μ V、1mV (開放時または50 Ω 終端時) に対する相対値dB、dBm、dBと μ V、mV、Vの適当なキーを押して電圧とdBの変換。外部インピーダンス変換器使用による75 Ω 動作で出力レベルを正規化できます。
 (全出力に同時に適用)
 確度 周囲温度+17℃～+27℃にて

● 1.2GHzまで

RFレベル		
個々の出力		コンバイナ出力
-127dBm～+6dBm	+6dBm～+24dBm*3	-127dBm～+4dBm
±0.8dB	±1.0dB	±1.0dB

● 2.4GHzまで

RFレベル		
個々の出力		コンバイナ出力
-127dBm～+6dBm	+6dBm～+20dBm	>-127dBm～0dBm
±1.6dB	±2.0dB	±2.0dB

● 温度安定度

1.2GHz以下	1.2GHz以上
±0.02dB/℃	±0.04dB/℃

*3: 100kHz以下、+6dBm (コンバイナ出力では-18dBm) を超える時にはレベル確度を規定しない
 2個以上の結合信号間の相対レベル確度 (同一出力にて)*4
 周囲温度17℃～27℃にて

● 代表値

RFレベル	1MHz～1.2GHz	1.2GHz～2.4GHz
-18dB～+4dBm	±0.3dB*3	±0.6dB
-18dB未満	±0.6dB	±1.2dB

*4: コンバイナへの外部入力信号には適用しない
 減衰器を固定し、その時のレベルから最少10dB下げることが可能

RFレベル追従

減衰器の固定

確度: ±3dB (代表値)

VSWR

個々の出力: (-5dBm以下の出力レベルにて)
 1.5:1以下 (1.2GHz以下)
 1.7:1以下 (2.4GHz以下)
 コンバイナ出力:
 1.22:1以下 (1MHz～1.2GHz)
 1.32:1以下 (1.2GHz～2.4GHz)

RF出力コネクタ

出力保護

50 Ω 、N形
 個々の出力:
 逆印加電力50W (出力インピーダンス50 Ω 時) または25W (VSWR5:1) 以下
 前面パネル、RS232またはGPIOでリセット可能
 コンバイナ出力:
 逆電力保護無し、最大総安全電力0.5W

■ スペクトル純度

高調波

個々の出力:
 代表値-30dBc以下 (RFレベル+6dBm以下)
 代表値-25dBc以下 (RFレベル+18dBm以下で、1.2GHz以上では+14dBm以下)
 コンバイナ出力: (1MHz以上に)
 代表値-30dBc以下 (RFレベル+14dBm以下)
 代表値-25dBc以下 (RFレベル+4dBm以下で、1.2GHz以上では0dBm以下)
 (搬送波周波数から3kHzを超える周波数で)
 -70dBc以下 (1GHz以下)
 -64dBc以下 (1GHz以上)
 -60dBc以下 (2GHz以上)

■ 高調波以外

アイソレーション

個々の使用している出力間: 80dB以上
 個々の使用している出力とコンバイナ出力間: 60dB以上
 コンバイナ出力と未使用出力間: 40dB以上
 コンバイナでRF出力0dBmにて

相互変調

周波数範囲	2トーン相互変調
10MHz～2.4GHz	-80dBc未満
5MHz～10MHz	-75dBc未満

RFレベルの減少により減少

残留FM

4.5Hzrms 偏移以下 (搬送波周波数1GHzで、0.3kHz～3.4kHzの帯域で)

代表値1Hz未満 (搬送波周波数249MHzで)

代表値3Hz未満 (搬送波周波数1.001GHzで)

SSB位相雑音

-124dBc/Hz以下 (搬送波周波数470MHz、20kHzオフセットにて)
 (代表値-121dBc/Hz、搬送波周波数1GHz、20kHzオフセットにて)

RF漏洩

0.5 μ V (出力に遮蔽した50 Ω を接続し、直径25mmの2回巻きコイルを50 Ω で終端して本体から25mm離れた点で検出した搬送波周波数にて)

振幅変調 (AM) 上の位相変調 (ϕ M)

代表値0.1rad

(搬送波周波数470MHz、変調度30%にて)

外部RF入力

外部入力を後面パネルに接続し、コンバイナを外部RF入力用に設定した時に適用
 挿入損失: 14.75dB $\pm$ 1dB
 周波数範囲: 10kHz～4GHz*5
 反射損失20dB以上 (2.4GHzまで)
 最大入力電力0.5W以下
 *5: 5GHzまで使用可能

■ 変調機能

● 周波数変調 (FM)、振幅変調 (AM) または位相変調を内部信号源または外部信号で可能

● 内部変調信号源は2信号を同時に1個の変調経路に発生可能

● 内部および外部の変調信号源で同時に振幅変調と周波数変調 (位相変調) が可能

● 外部パルス信号源で各搬送波信号にパルス変調可能。パルス変調は他の変調と同時変調可能

● 外部データ源で各搬送波信号に2値と4値のFSK可能

■ 周波数変調

偏移

0～100kHz

分解能

3桁または1Hz

確度

±5% (1kHzにて)

1dB帯域幅

DC～100kHz (DC結合)
 10Hz～100kHz (AC結合)
 20Hz～100kHz (AC結合、ALC適用)

群遅延

5 μ s以下 (100kHz以下に対し)

搬送波のずれ (DC結合)・設定偏移の1%以下

2026仕様

歪み率	1kHzの変調周波数で100kHz偏移まで1%以下 10kHz偏移まで代表値0.3%以下 搬送波周波数50MHz以下、100kHz偏移まで3%以下	■ 外部変調	
変調信号源	内部変調発振器または前面パネルBNCコネクタからの外部信号	● 前面パネルの変調入出力BNCコネクタへ入力。	
□ FSK		● 1.414Vpeak (1Vrms正弦波) 入力に対して校正。入力インピーダンスは公称100kΩ	
データ形式	2値または4値FSK	変調自動レベル制御 (OFF可能)	0.75V～1.25Vrmsの正弦波の外部変調入力レベルをピークレベルALC方式で制御。この範囲外の入力に対して入力レベルの高低を表示
データ源	25ピンD形コネクタによる外部入力	■ 掃引(スイープ)	
周波数シフト	±100kHzまで可変	● 1個の信号源の搬送波周波数を掃引(スイープ)可能。2個以上の信号の掃引を行う場合には結合素子が必要	
確度	FM偏移と同じ	設定値	搬送波周波数の開始値と停止値、1段当たりの周波数、1ステップ当たりの時間 1ステップ当たりの時間・50ms～10s
タイミング・ジッタ	±3.2μs	トリガ	後面パネルのBNCコネクタにトリガ入力 単発、連続、開始と停止、1段ずつの動作に使用可能
フィルタ	8次ベッセル、20kHzで-3dB	■ 周波数標準	
□ 位相変調		周波数	OCXO 10MHz
偏移	0.01rad単位で0～10rad	温度安定度	0℃～+50℃にて±5×10 ⁻⁸
分解能	3桁または0.01rad	エージングレート	±2.5×10 ⁻⁷ /年、±5×10 ⁻⁹ /日 (2ヵ月連続使用後)
確度(1kHz)	指示の±5%以下(残留位相変調を除く)	外部入出力	後面BNCコネクタ 入力: 入力抵抗1kΩ、入力レベル220mV～1.8V、周波数1MHzまたは10MHz 出力: 10MHz、2Vp-p(公称値、50Ω負荷時)を出力
3dB帯域幅	100Hz～10kHz	■ インターフェース	
歪み率	3%以下(変調周波数1kHz、10rad) 代表値0.5%未満(1kHz、1radまでの変調に対して)	GPIO	電源スイッチ以外の信号発生器の全数値をリモート・コントロール可能
変調信号源	内部の低周波(LF)発生器または前面パネルのBNCコネクタから	GPIO機能	IEEE488.2で定義している次のサブセットに適合 SH1、AH1、T6、L4、SR1、RL1、PPO、DC1、DT1、C0、E2
□ 振幅変調		RS232	電源スイッチ以外の信号発生器の全数値をリモート・コントロール可能 9ピン・コネクタ、ボーレート300～9600bit/s ハンドシェイクDTR、RTS、CTSおよびDSR ソフトウェアXONおよびXOFF 電氣的インターフェースEIA-232-D
搬送波周波数範囲	個々の出力:500MHz以下の搬送波周波数(1.5GHzまで使用可能) コンバイナ出力:5MHz以下は仕様外、1MHz以上使用可能、他は個々の出力と同様	■ 電磁界	
範囲	0.1%ずつ0～99.9%	● 保護要求EEC協議会指針89/336/EECに適合次の標準に規定している限界に適合	
確度(1kHz)	設定の±5%(1kHzにて)	EN55011 ClassB	CISPR11、
1dB帯域幅	DC～30kHz(直流(DC)結合) 10Hz～30kHz(交流(AC)結合) 20Hz～30kHz(交流(AC)結合、ALC適用)	EN50082-1	IEC801-2、3、4
歪み率(1kHz)*6	1.5%未満(変調度30%以下にて) 2.5%未満(変調度80%以下にて)	AS/NZS 2064.1/2	AS/NZS4252.1
変調信号源	内部低周波(LF)発生器または前面パネルのコネクタから	■ 安全性	
振幅変調(AM)上の位相変調(PM)		● class1 ポータブル機器用IEC1010-1、BS EN61010-1に適合	
	代表値0.1rad (搬送波周波数470MHz、変調度30%にて) *6: +10dBm以下(個々の出力)、-15dBm以下(コンバイナ出力)	● pollution degree2の環境用	
□ パルス変調		● 据え置き形電源用に設計	
周波数範囲	32MHz～2.4GHz、10MHzまで使用可能	■ 使用範囲	
RFレベル範囲	最大保証出力は5dBに低下	温度	0℃～+55℃
RFレベル確度	±0.5dBをRFレベル確度仕様に加算	湿度	+40℃にて93%まで
制御	入力:前面パネル上のBNCコネクタ、入力インピーダンス10kΩ、最大入力電圧±15V レベル:ロジック0(0V～1V)で搬送波遮断 ロジック1(3.5V～5V)で搬送波出力	気圧	海拔3050m相当まで
ON/OFF比	1.2GHz以下で45dB以上 1.2GHz以上で40dB以上	■ 保存及び輸送条件	
立上り/立下り時間	10μs以下	温度	-40℃～+71℃
■ 変調発振器		湿度	+40℃にて93%まで
● 各信号源用の変調発振器で1個の変調経路に同時に1～2個の変調トーンを同時発生可能		気圧	海拔4570m相当まで
周波数範囲	0.01Hz～20kHz、分解能0.01Hz	電源	90V～132V/188V～264V、47Hz～63Hz、最大200VA
周波数確度	周波数標準に同じ	校正周期	2年間
歪み率(1kHz)	0.1%以下	■ 寸法と質量	
波形	20kHzまでの正弦波と 3kHzまでの三角波と方形波	● 前面パネルの把っ手以外の全突起を含む	
方形波ジッタ	6.4μs未満	寸法	419W×177H×488D mm
オーディオ出力	変調発振器の信号を前面パネルの変調入出力BNCコネクタに出力 2VrmsEMF、信号源インピーダンス600Ω	質量	約20kg

マルチソース多重信号発生器

2026Q仕様※下記以外の仕様は2026の仕様を適用

■搬送波周波数

単独周波数範囲	10kHz～2.4GHz
結合周波数範囲	800MHz～2GHz
分解能	1Hz
確度	周波数基準に同じ

■RF出力

範囲	個々の出力：-137dBm～+24dBm*1 コンバイナ出力：-127dBm～-13dB 最大出力はパルス変調時は5dB減少、AM変調時には変調度によって最大6dB減少 *1：1.2GHzを超える周波数では+20dBm
分解能	0.1dBまたは3桁(μV、mV、V)
確度	周囲温度17℃～27℃にて 個々の出力：

RF周波数	RFレベル		温度安定度
	-127dBm～+6dBm	+6dBm～+24dBm*3	
1.2GHz以下	±0.8dB	±1.0dB	±0.02dB/℃
1.2GHz以上	±1.6dB	±2.0dB	±0.04dB/℃

結合出力(-20dBm～-35dBmにて)：

RF周波数	結合出力
865MHz～895MHz	±0.75dB
1750MHz～1990MHz	±0.75dB

*3：100kHz以下、+6dBm(コンバイナ出力では-18dBm)を超える時にはレベル確度を規定しない
減衰器を固定し、その時のレベルから最少10dBまで下げることが可能

減衰器の固定

確度：代表値±3dB

VSWR

個々の出力(-5dBm以下の出力レベルにて)：
1.5:1以下(1.2GHz以下)
1.7:1以下(2.4GHz以下)

■無線機接続(2026Q回路構成図1ページ参照)

経路損失

ポート	865MHz～895MHz	1750MHz～1990MHz
(X→Y)*	代表値14dB	代表値15dB
(Y→Z)	代表値13.5dB	代表値13.5dB
(Y→X)	>35dB	>35dB

*865MHz～895MHz、1750MHz～1780MHz、1930MHz～1990MHzで周波数特性±0.1dB未満
経路損失の測定データを添付
測定確度±0.25dB

VSWR

	865MHz～895MHz	1750MHz～1990MHz
ポートX	<1.2:1未満	<1.35:1未満
ポートY	1.6:1未満*	1.6:1未満*
ポートZ	1.35:1未満	1.35:1未満

*代表値：1.25:1以下

最大安全電力(整合状態で)

ポートX	+19dBm
ポートY	+33dBm
ポートZ	+33dBm

RF出力コネクタ

出力保護

公称値50Ω、N形
個々の出力：送電力に対し50Ωからの50Wまで、または5:1のVSWR源からの25Wまで
前面パネルまたは GPIB でリセット可能
コンバイナ出力：逆電力保護無し

■スペクトル純度

高調波

個々の出力：
代表値-30dBc以下(RFレベル+6dBm以下)
代表値-25dBc以下(RFレベル+18dBm以下で、1.2GHz以上では+14dBm以下)
コンバイナ出力：
代表値-30dBc以下(RFレベル-36dBm以下)
代表値-25dBc以下(RFレベル-13dBm以下)

高調波以外

代表値-70dBc以下(1GHz以下)
代表値-64dBc以下(1GHz以上)
代表値-60dBc以下(2GHz以上)

アイソレーション

個々の出力間：80dB以下
個々の出力とコンバイナ出力間：60dB以下
コンバイナ出力と未使用出力間：40dB以下
コンバイナでRF出力-22dBm、周波数800MHz～2GHzにて-75dBc未満

相互変調

残留FM

RFレベルによって減少
4.5Hzrms 偏移以下(搬送波周波数1GHz、帯域0.3kHz～3.4kHzで)

SSB位相雑音

代表値1Hz未満(搬送波周波数249MHzで)
代表値3Hz未満(搬送波周波数1.001GHzで)
-124dBc/Hz以下(搬送波周波数470MHz、20kHzオフセットにて)
(代表値-121dBc/Hz、搬送波周波数1GHz、20kHzオフセットにて)

RF漏洩

0.5μV未満(出力に遮蔽した50Ωを接続し、直径25mmの2回巻きコイルを50Ωで終端して本体から25mm離れた点で検出した搬送波周波数において)

振幅変調(AM)上の位相変調(PM)

代表値0.1rad
(搬送波周波数470MHz、変調度30%にて)

■変調

- 周波数変調(FM)、振幅変調(AM)または位相変調を内部信号源または外部信号で可能
- 内部変調信号源は2信号を同時に1個の変調経路に発生可能。
- 内部および外部の変調信号源で同時に振幅変調と周波数変調(位相変調)が可能
- 外部パルス信号源で各搬送波信号をパルス変調可能
- パルス変調は他の変調と同時変調可能
- 外部データ源により2値と4値のFSKが可能
- 仕様は標準の2026と同じ

■周波数標準

周波数	OCXO 10MHz
エージングレート	±2.5×10 ⁻⁷ /年 ±5×10 ⁻⁹ /日(2ヶ月連続使用後)
温度安定度	0℃～+50℃にて±5×10 ⁻⁸ 未満
予熱時間	+20℃で電源投入10分後に最終周波数の±2×10 ⁻⁷ 以内
外部入出力	後面BNCコネクタ 入力：入力抵抗1kΩ、入力レベル220mV～1.8V、周波数1MHzまたは10MHz 出力：10MHz、2Vp-p(公称値、50Ω負荷時)を出力

■質量

質量 約18kg

オーダーリング・インフォメーション

■ 本体

2026-300	マルチソース多重信号発生器(信号源3個内蔵)
2026-200	マルチソース多重信号発生器(信号源2個内蔵)
2026Q	CDMA干渉信号発生器

■ オプション

Opt004

前面コネクタを背面へ移設

(2026-300/2026-200のみ取付け可)

Opt101

経路損失変更オプション（2026Qのみ取付け可）
経路損失及びVSWR特性を向上させるオプション
です。Opt101装着時、仕様は下記（太字）の様になり
ます。

經路損失

ポート	865MHz～895MHz	1750MHz～1990MHz
(X→Y)	代表値2.5dB	代表値4dB
(Y→Z)	代表値13.5dB	代表値13.5dB
(Y→X)	>35dB	>35dB

865MHz~895MHz、1750MHz~1990MHzで周波数特性 $\pm 0.25\text{dB}$ 未満測定確度 $\pm 0.25\text{dB}$

VSWR

	865MHz～895MHz	1750MHz～1990MHz
ポートX	<1.3:1	<1.45:1
ポートY	1.6:1未満	1.6:1未満
ポートZ	1.35:1未満	1.35:1未満

最大安全電力(整合状態で)

ポートX	+15dBm
ポートY	+33dBm
ポートZ	+33dBm

■ 標準添付アクセサリ

電源コード	1
英文取扱説明書	1
和文取扱説明書	1

■ 別注文アクセサリ

54311-208	50Ω ↔ 75Ω 変換アダプタ
46884-931	ラック取付け金具 前面パネル・ブラケット
46662-614	ソフトケース
59999-724	TEMセル
46884-650	RS232ケーブル、9ピン(メス) ↔ 9ピン(メス)、1.5m
46884-649	RS232ケーブル、9ピン(メス) ↔ 25ピン(メス)、 1.5m